

# 長崎県の美しつままちびつら

## 下五島福江島編

上五島をご紹介した前回に引き続き、今回は下五島の福江島をご紹介します。福江島は下五島最大の島で、かつては五島藩主のお膝元として栄えました。

玄関口である福江港ターミナルから西南の方向へ歩くとすぐに、堀に囲まれた福江城址と、藩主の居所であった五島邸が見えてきます。この福江城は、三方を海に囲まれた日本唯一の海城で、黒船の来航に備えて築かれた江戸時代最後の城でもあります。

付近にある武家屋敷通りは「美しいまちづくり重点支援地区」となっており、幅員の広い道路が美装化され、石垣もよく保存されています。石垣に囲まれた敷地内には、古い家ばかりではなく比較的新しい家もありますが、多くの家が立派な門を備えています。

通りの一角の播磨邸跡は市の文化財で、県のまちづくり景観資産にも登録されています。現在は「武家屋敷通りふるさと館」として利用されていて、庭園や喫茶コーナーなどがあり、散策途中のお立ち寄りスポットとして最適です。

市街地を抜けて福江島を一周すると、比較



的平坦な地形で、田んぼや畑が一面に広がり、川が流れる穏やかな地区や、大瀬崎断崖の見事な絶壁など、様々な地形が織りなす魅力的な景観にあふれています。上五島と同様に椿が多く自生していて、最近では椿を使った島おこしに市を挙げて取り組んでいます。街路樹として椿を植樹したり、化粧油として有名な椿油の食用としてのブランド化を進めているほか、花の盛りの2月ごろには、五島椿まつりも開催されています。椿の名花「玉之浦」で有名な玉之浦地区では、椿だけでなく「紫陽花街道」も見どころになっています。これは10年以上前から住民の皆さんが道路沿いに紫陽花を植えているもので、初夏には約1kmにわたり満開の紫陽花が楽しめます。

福江島北西部の三井楽には、地元の敬虔なカトリック教徒が眠る淵ノ元カトリック墓碑群が、草原の一角に広がっています。静かにたたずむ十字の墓碑群やマリア像の向こうに落ちる夕陽は厳かで、どこかもの哀しさを感じさせます。東シナ海の水平線を臨むこの場所は、迫害に耐えたキリシタンの歴史を後世に伝えると同時に、住民にとってはご先祖を偲ぶ身近で大切な場所となっているのです。(景観班／梅原)